

人命を守ることができるデジタルインフラの構築に向けて

LINE 株式会社 執行役員

江口 清貴

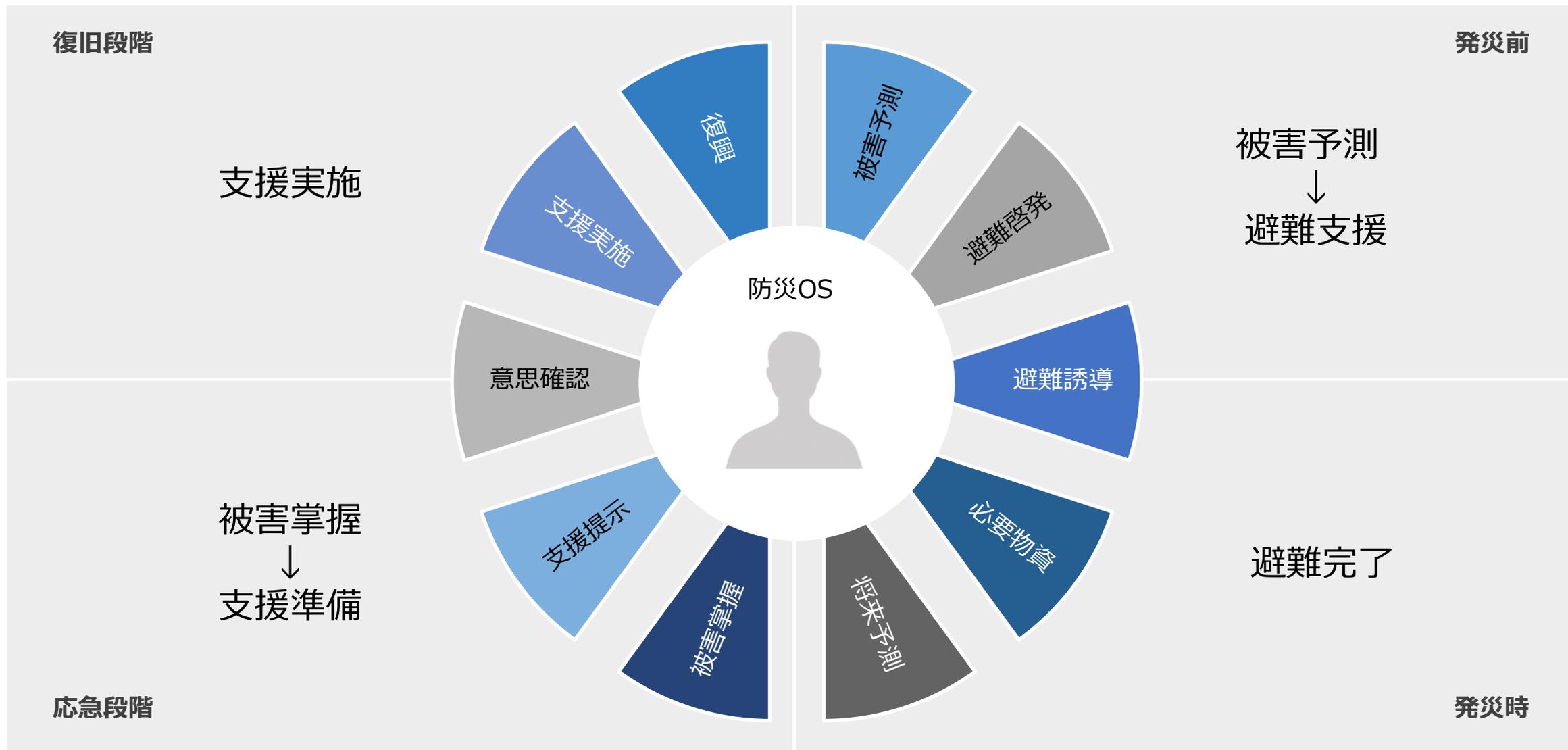
LINE

人命を救うために目指すべきは

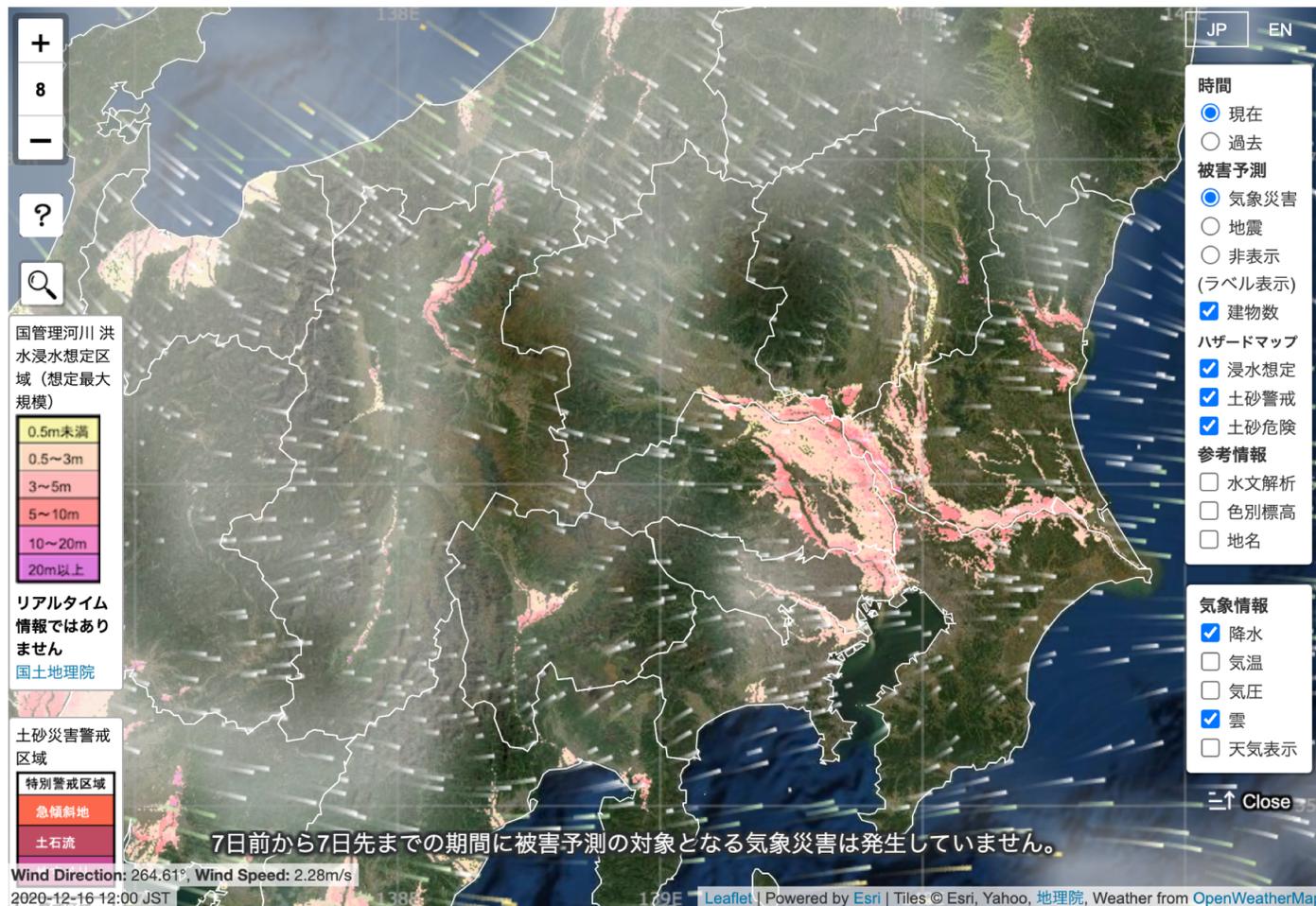
救助が不要な世界

救助が不要な世界とは

データを集約・突合・分析・予測をして発災時には皆避難が完了し、避難所で快適に過ごさせている世界



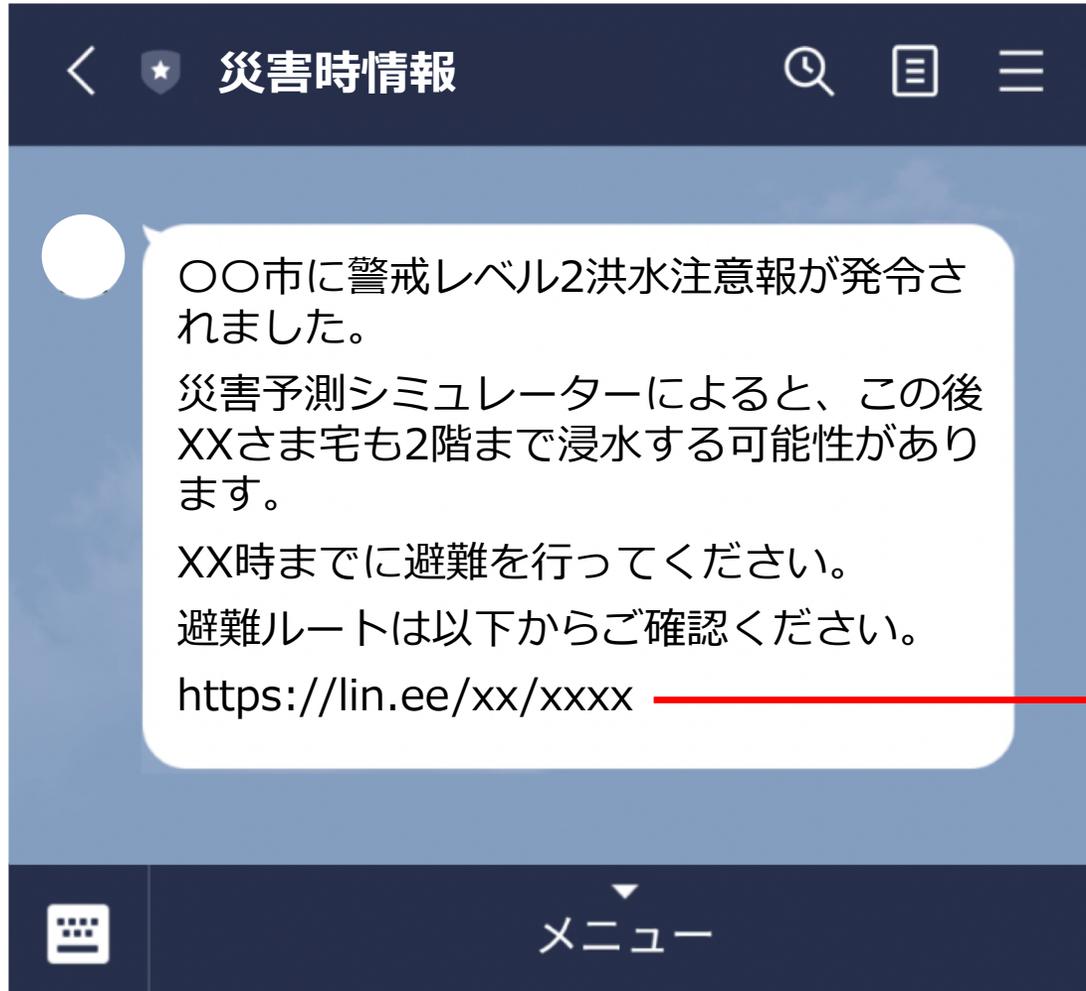
① 発災前：発災可能性、被害予測



- ・ 気象状況
- ・ 過去の被害状況
- ・ ハザードマップ
- ・ 建物の高さ

などから
被害予測シミュレーションを
実施

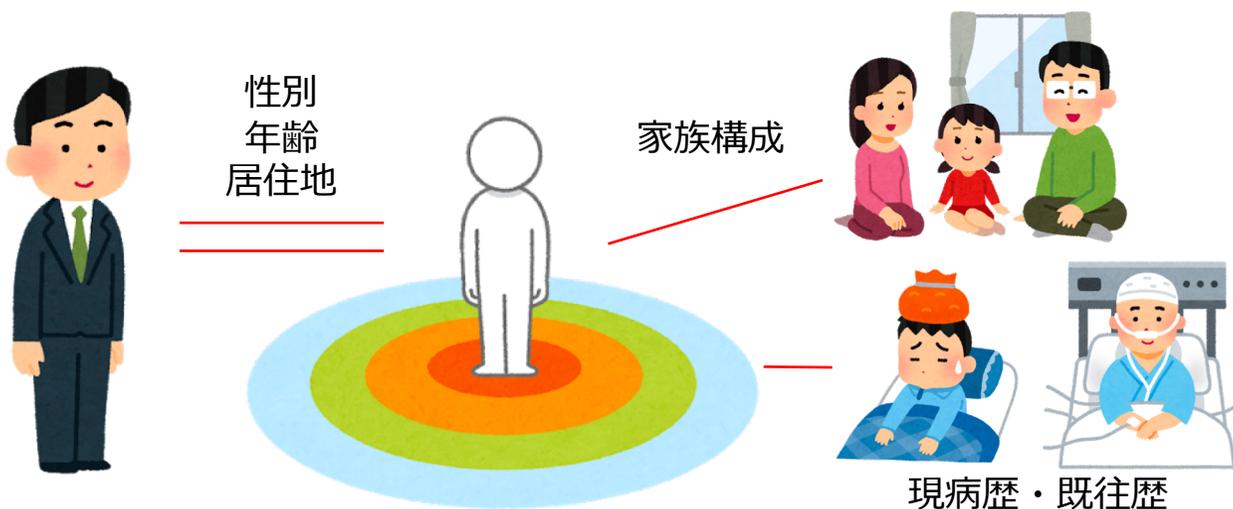
②発災前～発災時：事前・リアルタイム情報からの避難啓発



避難予測に基づき、
避難タイミングと避難場所、
安全な避難ルートが
ユーザーの手元に届く



③発災前～発災時：必要物資等の事前収集



事前情報と予測情報に基づいて避難所が設営され、物資も事前に届いている

避難者が避難してくると快適に過ごすことができる



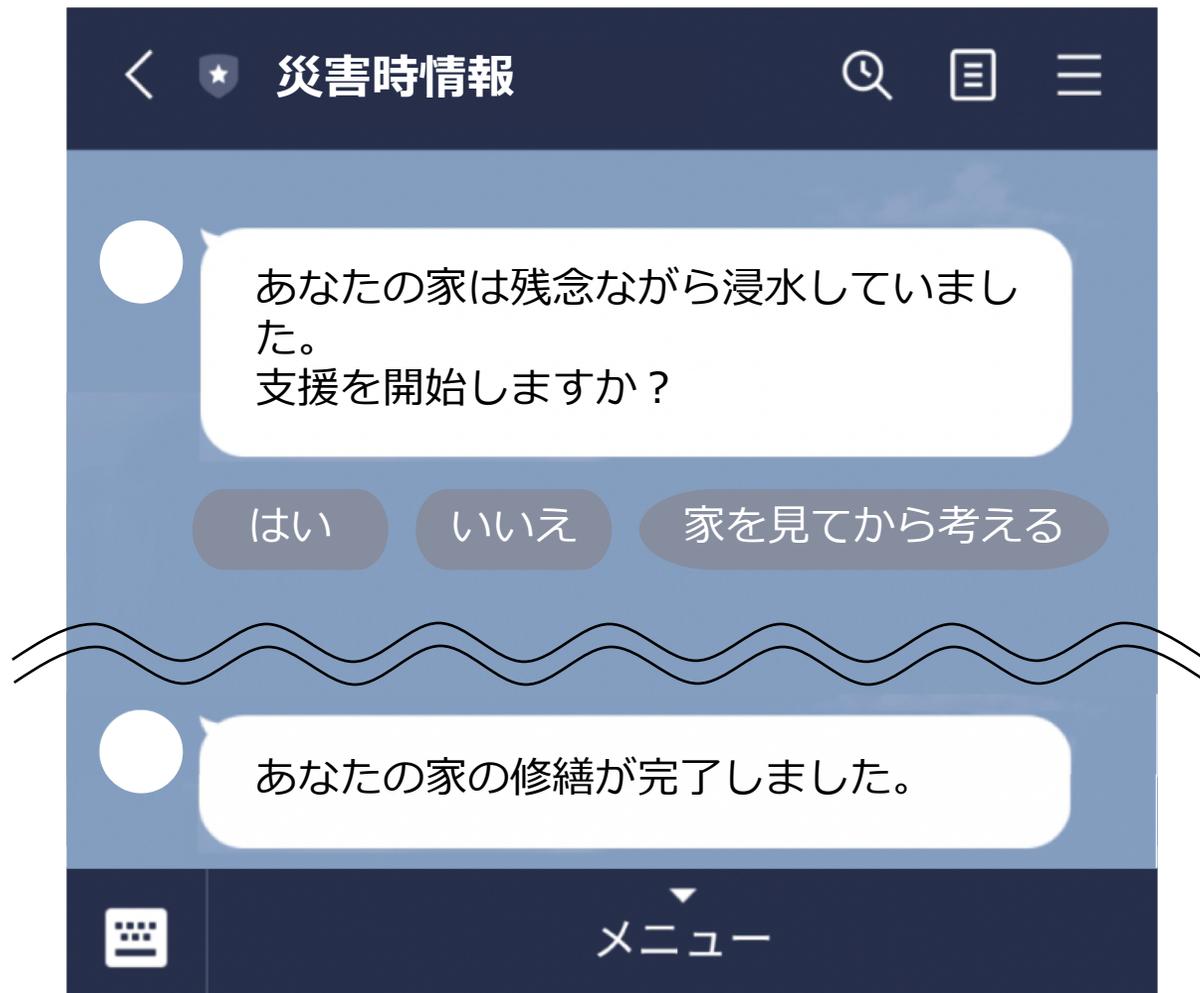
必要物資が
必要人数分
予め準備されている
快適な避難所生活



発災時には
全員避難済



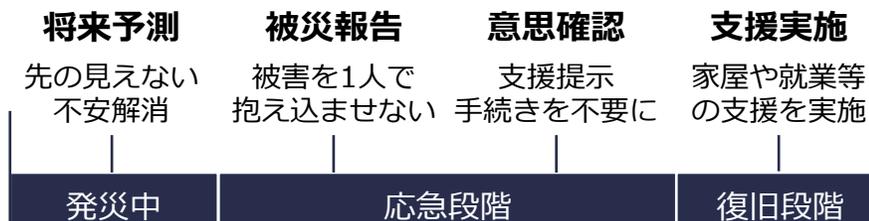
④ 応急段階～復旧段階：被害状況把握・復興支援



被害状況は情報集約システムで把握し被災者情報と突合

支援開始を希望すると、仮設住宅入居から家屋等の修繕まで、被災者は意思表示をするだけで進行

復興まで個人の状況に合わせ支援



救助が不要な世界

データの集約・突合・分析・予測：防災OSの構築

あらゆるデータにアクセスし理想を実現

- ・ 発災可能性・被害予測
- ・ 事前避難の啓発
- ・ 避難ルート提示(必要な場合)

- ・ 発災時避難完了、必要物資も備蓄済
- ・ 被害における支援提示・住民意思確認
- ・ 住民意思に合わせた生活再建支援実施

住民情報

- ・ 年齢/性別
- ・ 居住地/居住階
- ・ 家族構成
- ・ 現病歴/既往歴
- ・ アレルギー 等

災害情報

- ・ 気象データ
- ・ 地図データ
- ・ 自治体データ
- ・ 居住者情報
- ・ 産業情報 等

突合・分析・予測